

★学校の教育目標 敬愛・自由・勤労		◎考える子 ○はたらく子 ○心ゆたかな子 ○健康な子		★重点計画の概要			
★目指す学校像（ビジョン）笑顔いっぱい、元気いっぱい、やる気いっぱい、潤徳の子（対話・協働）				・「供たちがつくる学校プロジェクト」の一層の充実を図るため、企画運営を行う「児童会本部役員」に各委員会の委員長を加えた「中央委員会を中心とした組織体制を確立し、円滑で効率的な運営ができるようにする。			
【目指す児童像】笑顔招福～SMILEFUL 潤徳小～（多様な参画）				・コミュニティ・スクール移行に伴い、名称を「潤徳ファンミーティング」（略称：潤ファミ）とし、学校をよりよくするサービスを提供する店舗というコンセプトの下、地域学校協働活動の推進を図る。			
【目指す教師像】「できない」ではなく「できるためにはどうするか」と考える教師 地域にある学校として、地域を愛する教師 自らの職責と使命の重さを自覚した「プロ意識」の高い教師 「潤徳愛」とチャレンジ精神にあふれる教師（教職員の挑戦）				・「デジタルを活用したこれからの学び推進地区」の実践校として、デジタルを活用したこれまで求められる授業に関する研究を行い、その成果を普及する。			
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準	学校評議員・学校運営協議会の意見		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	「児童会がつくる学校プロジェクト」の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童自身が、学校生活をよりよくするための活動を考え、実践する取組を推進する。 従来の形式にとらわれない、児童の発想を生かした新たな行事やイベントを創造する。 	<p>4 100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>3 90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>2 80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>1 80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p>	<p>3 4 児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上</p> <p>3 3 児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上</p> <p>2 2 児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上</p> <p>1 1 児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満</p>	<p>4 プロジェクトは、児童会本部役員が中心となって子供たちが楽しみながら意欲的に取り組んでいる様子が見られた。今後も子供たちの「やってみたい」を大切にしてプロジェクトを推進していくほしい。ただ、休み時間が縛られ、遊んだり、談笑したりという自由な活動が減ってしまうのではないかという懸念がある。</p>	子供の主体性は高まっているが、「自由時間の減少」が心配の声として上がっている。今後、改善を図るために例えば、短時間で集まる仕組みや、活動しない日を設けるなど、子供自身が休息を管理するルール作りを支援し、挑戦と休息のバランスを重視したい。	
	保健衛生や安全に気を付け、体を鍛える児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童の健康や安全を守るための取組を推進する。 食に関心をもち、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける児童を育成する取組の充実を図る。 運動に継続的に親しみ、体力を向上させようとする意欲を高める。 	<p>4 100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>3 90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>2 80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>1 80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p>	<p>4 4 児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上</p> <p>3 3 児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上</p> <p>2 2 児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上</p> <p>1 1 児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満</p>	<p>4 給食に児童が育てた野菜を活用したり、地産地消を取り組みは食への関心を高め、教育的価値が高い。一方で、猛暑による運動機会の減少が懸念される。今後は、環境に左右されず心身を育む新たな活動形態の構築が急務である。また、今後も感染症の拡大防止のために手洗い、うがいの励行に努めていく。</p>	地産地消の取り組みは食への関心を高め、教育的価値が高い。一方で、猛暑による運動機会の減少が懸念される。今後は、環境に左右されず心身を育む新たな活動形態の構築が急務である。また、今後も感染症の拡大防止のために手洗い、うがいの励行に努めていく。	
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	「デジタルを活用したこれからの学び推進地区」実践校としての取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> デジタルを活用したこれまで求められる授業に関する研究を行い、その成果を普及する。 	<p>4 100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>3 90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>2 80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>1 80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p>	<p>4 4 児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上</p> <p>3 3 児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上</p> <p>2 2 児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上</p> <p>1 1 児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満</p>	<p>4 デジタルが広く活用され、授業はもちろんのこと、他校との交流が図られていて素晴らしい取組だと感じる。将来、外国とつながりながら学習することもできるのではないかと期待している。その一方で読み書きや読書は、大切にしてほしいと考える。また、視力の影響も心配である。</p>	ICTによる交流の充実を図る一方、学力の基礎となる読解力や視力低下に配慮していく必要がある。本校では、デジタルと紙の併用在校内研究でも模索している。今後もデジタルの学びと健やかな心身の成長を両立させる指導の充実をしていく。	
	児童一人一人に徹底的に関わる指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の状況に応じた適切な指導と必要な支援の充実を図る。 関係機関、専門家との連携による組織的な取組を推進する。 	<p>4 100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>3 90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>2 80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>1 80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p>	<p>4 4 児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上</p> <p>3 3 児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上</p> <p>2 2 児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上</p> <p>1 1 児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満</p>	<p>4 日野市は、特別支援教育が充実しており、フォロー機関が充実していると考える。潤徳小においてもステップ教室やリソースルームと通常級の担任との連携がよくとれていると感じる。教室に入りづらい児童が自分らしく過ごせる温かな居場所作りを今後も継続して行ってほしいと思う。</p>	不登校傾向にある児童への個別支援が喫緊の課題となっている。今後はリソースルームの役割を拡充するとともに、支援員等を活用し、ICTも取り入れた重層的な居場所づくりを推進する。今後も個別最適化された指導・支援の実現を目指す。	
社会と未来に開き、みんなでつくる	コミュニケーション・スクール移行による、地域学校協働活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「学校生活をよりよくするサービスを提供する店舗」とのイメージを基本とし、保護者や地域関係者が学校運営に関わる体制を構築する。 	<p>4 100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>3 90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>2 80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>1 80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p>	<p>4 4 保護者アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上</p> <p>3 3 保護者アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上</p> <p>2 2 保護者アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上</p> <p>1 1 保護者アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満</p>	<p>4 コミュニティ・スクール委員会を「潤ファミ」と名付け、保護者や地域の方々に親しみを持ってもらおうらいがよかつた。今後も学校との連携を継続し、保護者や地域の方がより参加したくなるようなコミュニケーションを進めたい。今後は、潤ファミ企画をより一層推進し、潤徳小と保護者、地域を確固なるものとなるようにしていく。</p>	コミュニケーション・スクールとなり、約1年が経った。保護者には、「潤ファミ」の活動に理解を示し、活動に参加してくださる方が増えている。今後は、潤ファミ企画をより一層推進し、潤徳小と保護者、地域を確固なるものとなるようにしていく。	
	保小、小小、小中連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の4つの保育園との連携を中心に、円滑な接続を図る。 日野第八小学校と一部の教育活動を共同で実施する。 主に三沢中学校との交流を深め、中学校進学への不安を軽減する。 	<p>4 100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>3 90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>2 80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p> <p>1 80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。</p>	<p>4 4 児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上</p> <p>3 3 児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上</p> <p>2 2 児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上</p> <p>1 1 児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満</p>	<p>4 潤ハなかよし大作戦は、とてもいい取組だと感じる。また、保育園が小学校の体育館等で運動会を協力している姿が素晴らしいと感じる。今後も保小、小小との連携も大切にしていってほしい。ハ小とのコラボが今後、継続していく中でオンラインではなく、直接交流になっていくことを期待している。</p>	ハ小との交流は初年度ということもあり、間接交流に留まった。今後はオンラインから直接交流への移行を段階的に進め、共同行事や授業交流の場を拡充することで、地域一体となった持続可能な連携体制を構築し、児童の社会性を育むことが重要であると考える。	

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。